

長浜市ゼロカーボンシティ宣言

～2050年までに温室効果ガス排出実質ゼロを目指します～

近年、人為的な温室効果ガス排出の増大に起因するといわれる気候変動の影響により、世界各地で猛暑や集中豪雨などの深刻な自然災害が頻発しています。そのため、人類やすべての生き物にとって生活基盤を揺るがす「気候非常事態」となっています。

本市においても、経験したことのない記録的な猛暑や短時間豪雨、台風の大規模化による被害が生じていることから、その脅威を感じる状況になっています。姉川や高時川、余呉川などにより形成された平野部が広がり、伊吹山系の山々が造りだしている優れた自然景観を今後も守り続け、次世代へつなげていくことは現代を生きる私たちの責務です。

気候変動に対する危機感から、政府も2020年10月26日に「2050年までに、温室効果ガスの排出を全体として実質ゼロにする、すなわち2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指す」ことを宣言しました。

脱炭素社会の実現に向け、市民一人ひとり、事業者、行政などの全ての主体が気候非常事態であることを認識し、自らの課題として捉える必要があります。そのため、本市の地域資源に由来する再生可能エネルギーのさらなる活用、市民活動や事業活動における省エネ行動、高効率エネルギー機器の導入、森林の整備による二酸化炭素の吸収や炭素の貯蔵効果もある市産材の活用などを積極的に進めなければなりません。また、適応策を講じていく必要があります。

以上の背景をもとに、2050年までに市全体の温室効果ガス排出量の実質ゼロを目指し、本市の環境像「みんなで育む水とみどりにつつまれたまちながはま」を実現するための取組を市民・事業者・行政などが協働して地域ぐるみで力強く進めていくことを誓い、ここに「長浜市ゼロカーボンシティ」を宣言します。

2022年（令和4年）3月20日

長浜市長

浅見宣義